

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「社食のヘルシーランチで国際貢献」
- 2) 「好みの酒、好みの温度で 燗酒復権の兆し」
- 3) 「ブログ開設 10 人に 1 人」
- 4) 「ホースセラピー」

1) 「社食のヘルシーランチで国際貢献」

社員食堂でヘルシーメニューを食べて、途上国の学校給食を支援するプロジェクト「TABLE FOR TWO (テーブルフォーツウ)」が注目を集めている。

TABLE FOR TWO とは、『途上国と先進国の人が時間と空間を越えて食事を分かち合う』という意味で、日本で生まれた独創的な活動。

飢餓問題に苦しむ途上国と、食べ過ぎなどで生活習慣病が増える先進国との「食の不均衡」を解消するのが狙い。社員の健康対策と社会貢献活動を同時にできることから大手企業が続々と参加している。

栄養失調や飢餓で苦しむ途上国の学校給食費用を 1 食 20 円と試算。食べ過ぎによる肥満や生活習慣病が社会問題となっている先進国の社員食堂でカロリーを抑えたヘルシーメニューを提供、収益から 1 食につき 20 円を寄付してもらう仕組み。

この活動が世界に広まりつつあり、すでに中国やインドに活動拠点ができ、4 月には米国でもこの活動がスタートする予定。

自分の食生活を見直せ、生活習慣病の予防にもつながる。そのうえ社会貢献もできる取り組みは魅力的。原材料高などの問題もあるが、スーパーでも「TABLE FOR TWO」弁当を作り、消費者と一緒に社会貢献 できれば素晴らしいことだと思う。

2) 「好みの酒、好みの温度で 燗酒復権の兆し」

日本酒造組合中央会が、外食産業向けに美味しいお燗のコツをまとめた。

6 段階の温度で呼び名があり、それぞれ味の特徴がある。

昭和 50 年代頃までは、酒といえば燗酒が主流だったが、流通や醸造技術の進歩で、地酒や吟醸酒、生酒が身近になり、外食産業が手間のかかる熱燗から冷酒に切り替えたことにより、衰退の一途をたどった。

客の体調や好みを知る“お燗番”も店から消え、「燗酒は安い酒」「おいしくない」といった誤解も広まった。

しかし昨今の本物志向が手伝ってか、“日本酒ツウ”を気取れそうな錫やチタン製のちろりや、卓上でできる洒落た湯燗セットなどが発売されているという。

一年で一番寒いこの時期、自宅で好みの酒を好みの温度で楽しめる燗酒の魅力を再検討してもらうとともに、その飲み方や酒の種類によって、おつまみを提案するのも良い。クロスMDで消費者に新しい「発見」を提供することもできそう。

3) 「ブログ開設 10人に1人」

個人がインターネット上で手軽に情報発信できるブログの国内開設数が急増し、1300万件を突破した。

日本人の10人に1人が「自分のブログ」を持っている計算だ。有力な情報発信手段になったとみて、ブログへの広告配信など販売促進に活用する動きも企業の間を広がってきた。影響力が拡大し、ブログの不正利用を防止する対策も課題になっている。

ブログはサービス事業者のサイトに会員登録するだけで無料で開設できる。日本経済新聞社が国内主要14社の開設数を調べたところ、2007年11月末で計1354万件と、前年同月末に比べ約5割増えた。休眠状態のブログや1人で複数を開設しているケースもあるが、14社で全体の8~9割を占めるもよう。

食の安心・安全という言葉が盛んに叫ばれる今、消費者の食生活に大きな影響を与えるスーパーマーケットでも、積極的に取り入れているところが増えている。HPよりも手軽で、書き手にも読み手にも親しみやすいツールであるため、今後まだまだ活用の余地はありそう。

4) 「ホースセラピー」

大阪府枚方市の京阪平潟駅から徒歩5分の所に、ビル群にかこまれて約6500平方メートルの牧場がある。国内初の「ホースセラピー」専用牧場で、現在4頭の馬が放牧されている。そこでは、給餌、馬小屋清掃、乗馬体験ができるなど、不登校や引きこもりに苦しむ人たちが生活する活力を取り戻す場所となっているそう。

現在、セラピーを受ける人は約50人おり、多いのは小中学生の姿だが、職場になじめなかったり、病気などのやむを得ない事情で心身ともに疲れてしまって社会に復帰できない大人の姿もあるという。

「ホースセラピー」を運営しているNPOの理事長の女性自身も、以前の職場で激務が重なり、病に倒れ入院した後、家にこもりがちになった時期があったという。

その時訪れた乗馬クラブで馬に癒された体験がきっかけとなり、この「ホースセラピー」を思い付いたのだそう。まだ数は多くはないが、再出発を果たした人も出てきた。

こうしたセラピーの運営を通して、かつては苦しんだ理事長自身、世の中に少しは貢献できているんじゃないかと思えるのがうれしいと語る。

ストレスの多い現代社会、この様な活動を紹介する場として学校や企業はもちろん、子供からお年よりまで幅広い年代の人が集まる地元のスーパーも適役ではないかと思う。